重症心身障害者地域生活支援センター

発行者：社会福祉法人じねんじょ
発行日：平成27年9月吉日
ＴＥＬ：083-252-2227
ＦＡＸ：083-252-2259
E-mail：jinenjo@jinenjo.or.jp
http://www.jinenjo.or.jp

大地

（じねんじょ通信）

VOL. 24
2015/09

私たちのことを、私たち抜きに決めないで

社会福祉法人じねんじょ
理事長　金原　洋治

5月の終わりに市内の知的障害者施設において障害者虐待の衝撃的な映像が放映されました。皆様もじねんじょと同じ下関市市内の障害者が通う通所施設でのできごとだったので驚かれたことと思います。下関市自立支援協議会会長から福祉部長に要望書を提出し、山口県重症心身障害児者を守る会など6団体で、この痛ましい事件の検証と迅速で適切な対応や再発防止の要望を下関市に行ってきました。

今回の事件を他山の石と考えないで、今一度じねんじょの支援のあり方を初心に帰って、振り返ってみることが大切だと思っています。

メンバーさんという呼称はとても大切

障害者福祉施設における利用者さんと職員は、税金を使って行われる公的な福祉サービスの利用者と提供者との関係です。今回の事件が起こったのは、人権意識の欠如とともに、職員が利用者との根本的な意識が職員の頭の中になくなっていたことが大きな原因だと思います。じねんじょでは、利用者さんをメンバーさんと呼んでいます。私が提案したことではなく、職員が決めたことですが、とても大切な意味があります。成人対象の施設の中には、50歳や60歳になる利用者の方を「ちゃん」づけで呼んでいる施設があります。一見フレンドリーで良い感じの雰囲気に思えますが、この呼称を用いることは、対等な立場ではなく、上から目線になる危険性をはらんでいます。たかが呼称されど呼称です。これからも、メンバーさんを尊重した丁寧な言葉使いをして欲しいと思っています。

Nothing About Us Without Us（私たちのことを、私たち抜きに決めないで）

障害者権利条約策定の過程において、すべての障害者の共通の思いを示すものとして使用された障害者権利条約のコンセプトを象徴することばです。障害者が一般社会から保護される無力な存在とされ、自分の人生を自らが選択し、自らが決定することが許されなかった障害者の共通の経験の背景から出てきた言葉です。障害が重ければ重いほど意思の表明ができにくく、支援者も意思を受け止めることが困難になります。私は、じねんじょのスタッフが、メンバーさんの気持ちや意思を尋ねる姿勢を持ち、メンバーさんが持っているわずかな意思表示の表現である表情や体の動きに目を凝らして見つめ、言葉にならない声を聞きながら、選択肢を示し選んでもらうような姿勢で支援を行っていることを誇りに思っています。

みんなで学ぼう!障害者の権利擁護

今回の事件で、他市にひけをとらないと思ってきた下関市の障害者福祉を一から見直す必要があることがわかりました。今後、行政や市内の障害に関わる福祉教育、保育などの支援者、当事者、ご家族、市民の皆様と一緒に、継続して学び続ける必要があります。障害者の権利に関する機関や部署の設置、継続した研修会開催などが計画されています。皆様と一緒に学びましょう。

人権感覚をもった支援が大切!

重症心身障害者地域生活支援センター長　石塚忠志

（福）じねんじょが会員となっている日本知的障害者福祉協会は、本年度で設立80周年を迎えます。本会は、知的障がい者の自立と社会・経済活動への参加を促進するため、知的障がい者の支援及び福祉の増進を図ることを目的とする団体ですが、今日に至るまでに様々な課題に取り組んできました。また、当事者の方たちとそのご家族が中心となって結成された代表的な団体としては、全国重症心身障害児（者）を守る会、全国手をつなぐ育成会連合会があります。どちらも半世紀以上の活動を取り組んできました。

こうした先人たちの大変なご苦労、ご努力のおかげもあり、日本の障害者福祉のあり方は時代と共に大きく前進してきました。ここ10年を振り返ると、平成23年障害者基本法の改正、障害者虐待防止法の制定、さらに平成25年には障害者雇用促進法の改正、障害者差別解消法などが制定されました。諸制度の改正や法的整備がなされたことにより、平成26年には日本も「障害者権利条約」の条約国となり、障がいのある人たちを取り巻く社会情勢は大きく変化しています。

この条約により、障がいのある人たちの権利擁護を担うべき社会福祉施設の役割は、これまで以上に重要になってきました。障がいのある人たちの身近にいる私たち職員は、ともすればメンバー（利用者）の人権侵害を引き起こす可能性があることを十分認識しなければなりません。メンバーの取り巻く環境を再確認するとともに、日々の支援を人権の視点から見つめ、メンバーの障害特性に配慮した支援を積み重ねることにより、障害がある人たちが主体となった社会を目指し研鑽する必要があると思います。

私たちは、先人たちのご尽力により、今日の障害者福祉があることに敬意を払うと共に、確固たる人権感覚に裏打ちされた「障害者福祉」を継承していく責務があります。今後ともメンバーやご家族と共に歩んでいきたいと思いますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いします。

とりくみ

4階グループ（生活介護事業）

どんなに重い障害があっても住み慣れた地域で社会参加したい、地域と共にありたい。そんなメンバーさんの願いを叶えるため、じねんじょでは積極的に外出を計画しています。

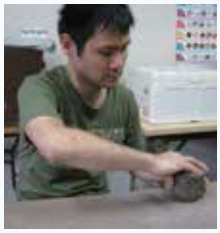
先日、新下関駅から小倉駅まで新幹線に乗って、西日本展示場で開催されているトミカ博に行きました。何年ぶりかの新幹線でメンバーさんも職員もわくわく、ドキドキそしてちょっぴり不安を感じていました。しかし、乗車してみてびっくり!!　でした。

以前とは違い「デッキスペース」ができており、ゆったりと過ごすことが出来ました。駅員さんにお尋ねすると「障害のある方の利用が年々増加していることからデッキスペースが設けられました」とのことです。写真を見てお分かりの通り、2列席の通路側席が取り除かれ、車いすと介助者が並列で乗車することが出来る様になっていました。

最後に、駅員の皆さんがとても優しく丁寧に対応して下さり、今回の外出がより一層楽しいものとなりました。ありがとうございました。

車いすご利用の皆様、是非ご家族で乗車してみてはいかがでしょうか。

分場だいち（生活介護事業）



じねんじょ分場「だいち」では、開所当時（H22年）から、「目標を持って作業的活動に取り組もう」ということで、陶芸作品・ビーズ作品・ミシンを使った作品作りを定期的に取り入れています。
その中の陶芸作品作りでは、盲学校で培った技術を生かすメンバーさん、感性をフル稼働しているメンバーさんと、それぞれ個性あふれる陶芸づくりに取り組み、販売までの過程をメンバーさんのペースでおこなっています。

昨年の8月から、陶芸の経験者が職員に採用されたことから、メンバーさんの技術も一段とUPしてきています。
基礎となる粘土のこね方から、専用道具の使いこなし方まで目からうろこのことばかりでしたが、継続して取り組むことで、メンバーさんの陶芸への意欲や集中力が向上したように感じています。支援する職員も様々な技法を取得することで、支援のポイントが見えはじめメンバーさんひとり一人の特性に合わせた作業方法を提案できるようになりました。

出来た作品は、今後のイベントに向け仕上げていく予定です。
自分たちで作った作品を地域の皆さんに買っていただき、喜んでいただいたという達成感やそこで得た収入でみんなが欲しかったものを手に入れる喜びが実感でき、また次への活動意欲につながっていけるとよいと考えています。

これからも、メンバーさんの成長を温かく見守ってください。

むくっこ（児童発達支援事業）

5月30日（土）“むくっこわんぱくフェスタ（運動会）”を開催しました。

今年は、総勢53名の方に参加して頂き、子どもも大人も一緒に楽しむことができました。

むくっこは、一人ひとりの子どもさんの「～がしたい」「～できた」という気持ちを育みながら日々の活動に取り組んでいます。お父さん、お母さん、きょうだい、おばあちゃん、おじいちゃん・・・皆さんの笑顔に包まれ、メンバーも日頃の成果を発揮できたことと思います。

ひなた（生活介護事業）

3.11の東日本大震災と同時に発生した福島原発事故は、福島のすべての人たちの暮らしに重くのしかかっている。子どもたちが遊ぶことのできない大地。安心して食べられる野菜を作れない大地。低いとはいえない放射線量の中で生活を続けなければならない不安。障がいを持つ仲間たちの作業所も同様にこの大きな問題の影響を受けている。大好きな福島をもとの姿に戻したい。思う存分外で遊び、仕事をし、安心して食べられる物を作れる大地を取り戻そう。被災地障がい者支援センターふくしまでは、大地の除染試験と障がい者の仕事おこしを、暮らしと仕事を取りもどすプロジェクトとして立ち上げました。

その一つが「ひまわり（UF-787）プロジェクト」です。

南相馬の6つの作業所が共同で製作する缶バッジに、ひまわりの種を添えて送ります。全国の買ってくれた人がひまわりを育て、種を収穫して送り返してもらいます。集まったひまわりの種で、高品質のひまわり油を搾り商品化、新しい仕事を作ります。JDF被災地障がい者支援ーふくしまでは、その仕組み（ネットワーク）つくりを支援しています。（南相馬ファクトリーホームページより）

この仕組みに、ひなたのメンバーもささやかですが参加しています。2013年秋、カンバッチを購入したことを皮切りにひまわりの栽培を始めました。2014年夏、大きなひまわりが咲き、収穫した種は南相馬ファクトリーに送り返しました。H27.2月「南相馬ファクトリー日記」にも掲載され感謝のお言葉をいただきました。

今年もふくしまから発信された元気から、障がいをもつ「なかま」と共に震災復興プロジェクトのひまわりを育てることで、福島とのつながりを日々感じています。福島のみなさんが、ひまわりのような明るい笑顔で過ごせますように今年もひまわりを育てています。

むく（放課後等デイサービス）

「障害のある子どもたちの手形を集め、世界一大きな絵を描こう」という挑戦を、難病と闘う子どもの母親たちが続けていると新聞記事に掲載されていました。「ハンドスタンプアートプロジェクト（HSAP）」と言うそうです。

発案したのは東京都の永峰玲子さん（代表）をはじめとし、難病の子どものご両親や支援者計10名で、手形を組み合わせて絵を描こうという試みです。「厳しい現実と向き合う子や家族が、互いにつながり、夢を感じるには―」と永峰さんは考え、そして「小さな力でも、手を取り合えば希望をかなえられることを示したい」とこの試みを始められたそうです。ギネス世界記録の認定と、2020年東京パラリンピックでの展示を目指すと記事に書かれていました。

この記事を読んだ私たちの頭に浮かんだのは「みんなつながってる」という、じねんじょが大切にしているキャッチフレーズでした。同じ使命を持ってメンバーさんたちの支援にあたらせていただいている者としてぜひこのプロジェクトに参加したいと思い、事務局にメールで問い合わせをさせてもらいました。

すると担当の方からこのようなお返事をいただきました。以下抜粋です。「みんなつながっている―素敵な言葉です。私たちも絆をテーマに活動しています。日本中、世界中の頑張っている子どもたちがつながり、一つの目標を達成する。それが希望の光になればと思っております」

夏休み期間中に、「むくっこ」「むく」で手形を取り、18歳以上のメンバーさんたち、ご家族、職員の思いも乗せて事務局に届けたいと思います。全国から集まった手形で描かれた作品の完成をみなさんもどうぞ楽しみに待っていただければと思います。

年間行事

じねんじょ公開フォーラム2015

平成27年6月20日(土)、東北大学医学部小児科准教授 田中総一郎先生、株式会社アライブ代表武山裕一氏を講師にお招きし、じねんじょ公開フォーラム2015を行いました。I部では、医療が必要な障害児(者)の方々が災害時にどのようなサービス・医療機器を必要とするのか、東日本大震災の経験を通して教えていただきました。II部では、家庭や学校で行える呼吸リハビリテーションを実技を交えながら学びました。参加してくださった130余名の方々とともに、楽しく有意義な学びの時を過ごすことができました。

ボッチャ大会

第10回身体障害者スポーツセンター主催のボッチャ大会が平成27年6月21日(日)に行われました。初心者の部参加5チームの内、じねんじょの「JJJ(トリプルJ)チーム」が白熱した戦いの末、見事に優勝しました!!!!!

ここ数回優勝を逃しており久々の優勝にみんなで喜びを噛みしめました。

パステル絵画展

平成27年6月30日(火)～7月5日(日)に下関市立美術館にて「第13回アートビレッジ39パステル絵画展」が開催されました。

じねんじょが参加させていただくようになったのは、平成22年第8回からで、今回で6回目となりました。

日々のパステル画活動では、主にポストカード作成に取り組んでいますが、純真無垢なメンバーさんだからこそ表現できる、深く味わいのある色やデザインに、職員は毎回感動と癒しをもらっています。

そんな天才アーティストたちが、年に1回思いを1つにして大作に挑みます。それが「アートビレッジ39パステル絵画展in下関市立美術館」です。

今年は、「わたしたちらしく」をテーマにキャンパスを5分割し、「じねんじょ4階グループ」「じねんじょ分場だいち」「じねんじょひなた」「むく」「むくっこ」の各グループが個性たっぷりに描いたキャンパスを合体させた大作です。

このほかにも、設立5周年記念作品「つながり」、10周年記念作品「夢」、分場だいち設立記念作品等多くの作品が描かれています。いつか、皆様にもご紹介できる作品展ができるといいですね。

じねんじょの輪

今回は、じねんじょメンバー達のヘアーアーティスト集団。
移動美容室「ビューティエクスプレス号スワン」の社長さんにインタビューしてきました。

私共とじねんじょさんとの御縁が出来ましたのは今から13年前の事でした。私共の社員の1人の方が障害を持たれたお子様がおられたのですが店に勤めながらじねんじょの前身の「きのみさん」に預けておられました。当時、通園されているお母様方をはじめ、皆様より私共の仕事を熱心にご理解とご援助頂き、月1回お伺いさせて頂くようになりました。13年間、いろいろありましたが今では2ヶ月に1回第2木曜日の午後2時よりお子様方の綺麗のお手伝いをさせて頂いています。

行き届かない事も多々あるとは存じますが今後ともよろしくお願い致します。本当に有難う御座居ます。

ビューティエクスプレス号スワン　青木　清

13年来のお付き合いとのこと、びっくりしました。
色々なエピソードがあったようですが、今ではヘルパーを使ってカットに行かれる方も増え「今回はどんなヘアースタイルにする?」等、会話を楽しみながら、スワン美容室さんが来られるのを待ちわびています。

これからもよろしくお願いします。

寄付者氏名(敬称略、順不同)
平成27年4月1日～6月30日

藤本良雄　やまぐち小児科
フタバ工芸社　さをり織サークル
もみの木薬局　ウクレレホリデー

たくさんのご寄付をいただきました。
ありがとうございました。

編集後記

今号は、メンバーさんたちと地域の方たちの交流の様子をご紹介しました。メンバーさんたちの心の中にある豊かな感性を感じていただけたでしょうか。今後も地域に根ざした活動を行い、メンバーさんと地域の方々が出会い、ふれあうことで、どんなに重い障害があっても共に生活できる社会の実現を目指していきたいと思います。